

“語るように奏でる” リュートの響き イタリアのルネッサンス / バロック時代の詩と音楽

LA VOCE DEL LIUTO: POESIA, MUSICA DEL RECITAR SONANDO TRA '500 - ' 600 IN ITALIA.

開催日時

2016年6月25日(土) 13:00 ~ 18:30

会場

熊本大学くすの木会館

聴講・参加無料

マッシモ・マルケーゼ氏近影

《シンポジウム》 総合司会・通訳：山田高誌（熊本大学教育学部准教授）

- 13:00 挨拶 原田信志（熊本大学学長）
- 13:10 挨拶 ステファノ・フォッサーティ（イタリア文化会館大阪 館長）
- 13:20 講演 吉川登（西洋美術史・熊本大学名誉教授）
「ルネサンス美術の中の楽器と音楽」
- 14:00 講演 マッシモ・マルケーゼ
（リュート奏者・アレクサンドリア音楽院“A. ヴィヴァルディ”古楽科教授）
「ルネサンス、バロック時代のリュートとその音楽：“語るように奏でる”ということ」
- 15:50-16:30 ラウンド・テーブル「文化交流の痕跡としての“リュート族”楽器」
マッシモ・マルケーゼ
エドモンド・フィリップーニ（音楽学・イタリア文化会館大阪芸術監督）
チャオンジェン・チャン（民族音楽学・熊本大学グローバルカレッジ特任教授）
吉川登

《コンサート》（先着 80 名程度・立見も歓迎）

- 17:00-18:30 マッシモ・マルケーゼ氏によるコンサート
 - P.P. ライモンド《種々のソナタ集》(1601)より、
カッサンドラ、リチェルカータ、バツレット他
 - J.H. カプスベルガー 《リュートのための
インタヴォラトゥーラ譜集 第1巻》(1611)より、
トッカータ、コッレンテ他
 - A. ピッチニーニ《種々のサラバンダのアリア》 他

本企画では、歴史的リュートの研究者にしてイタリア屈指のリュート奏者マッシモ・マルケーゼ（イタリア・アレクサンドリア音楽院“A. ヴィヴァルディ”古楽科教授）をお招きします。

イタリアのルネサンス、バロック時代の「響き」について、熊本在住の研究者とともに多角的に論じ、マルケーゼ氏による歴史的リュートを用いたソロ・コンサートを開催いたします。

これは、熊本とイタリアの文化的交流を熊大から発信しようとする芸術系講座の共同連続企画の第1弾です。是非ともご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

リュート奏者

マッシモ・マルケーゼ *Massimo Marchese*
<http://www.massimomarchese.it/>

略歴

イタリア屈指のルネサンス / バロック・リュート奏者。ヤコブ・リンドベルイ、ポール・オデット、ホフキンソン・スミスに師事。ロンドン王立音楽大学卒業、バウアー高等音楽院リュート科修了。

1980年より通奏低音奏者、およびソリストとしてイタリア各地および国際的に活躍。ド・ヴィゼ作品集全集の出版（2011/2015）において注目を集めている。

現在、アレクサンドリア音楽院古楽科教授。

演奏紹介 <https://www.youtube.com/watch?v=Nn0hcI7ETgc>

主催：熊本大学教育学部音楽科 熊本大学教育学部美術科 共催：熊本大学文学部（西洋史研究室・芸術学研究室） 特別協力：イタリア文化会館大阪

協力：熊本大学政策創造研究教育センター 熊本大学グローバル教育カレッジ

後援：在大阪イタリア総領事館 国際モーツァルト財団（在ザルツブルク） 大阪モーツァルト協会

